

## 文学散歩・火垂の墓を歩く

田島廣子

2018年5月19日11時。22名が石屋川駅集合した。

梅田発特急に乗り御影で下車、ここから各停にのる。不安で落ち着かない。石屋川駅のアナンスで「石屋川駅…」と言う。ほっとした。9時20分 どうも1番のりのようだ。待合室で声を出して火垂の墓の朗読の練習をした。私はなまりがきついで、ふさわしくないと断ったのだが、マイクのない場所で読むから、声が大きいかと、選ばれたらしい。自分の詩を朗読するのと違い、難しさがあった。どう言葉・声で表現するか、感じ方によって違うように思った。



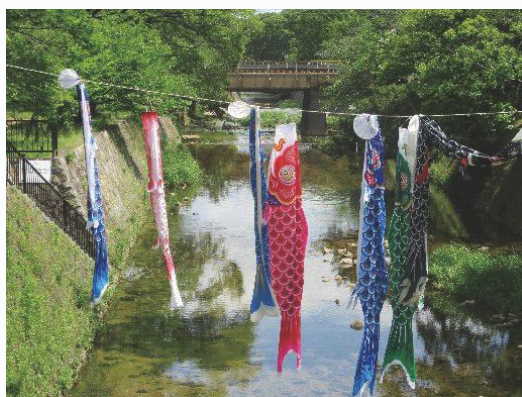
戦前からの建物で「火垂るの墓」にも登場する御影公会堂の中を散策してから、御影小学校（戦中は国民学校と言われていた）の横を通って、再び阪神石屋川駅へ。電車で香櫨園駅へ移動。



昼食は香櫨園から少し歩いた国道二号線沿いの夢庵で、ヒレカツ定食か・カレーの煮つけを食べた。ビールは汗をかけば美味しさは格別である。

### 夙川公園

鯉のぼりが自由に元気よく空を泳いでいる。緑風は肌にさわやかだ。生きている。しあわせとは、詩の仲間と親睦を深めながら歩く。今日のような日を言うのだろうか。



### 夙川公民館で

永井さんのオリエンテーション 野坂昭如の背景 略歴 火垂の墓についての説明など分かりやすく、うなずきながら聞いた。

朗読の間静かに聞きいてくれていたように思う。良かったのではないだろうか。

そのあとは、歌手野坂昭如の「黒の舟唄」を永井さんがユーチューブを聴きながら練習してきた美声のリードで皆で歌った。男と女の恋の歌だが、いきで面白い。いずれも最後に、振り返るなROW-ROW 心を込めて歌いたいところである。



「火垂るの墓」朗読者は前列左から、神田さよ、大西久代、田島廣子、青木春菜、市原礼子。解説が永井ますみ。

皆足が速い。心筋梗塞だの・脳梗塞だのと救急車に乗っていた人も、一万歩あるいたよ。びっくりされていた。夙川から満池谷まで清太・節子たちが、戦時下 孤児になり、悲惨な状況の中で生きようとした場所を歩く。あわれで、せつなく胸に追ってくる。

火垂るの墓は1967年昭和42年雑誌「オール読物」10月号に掲載され「アメリカひじき」と共に翌春第58回直木賞を受賞した。1988年昭和63年アニメ映画「火垂るの墓」が公開された。日本母親大会でも上映され母親達はすすり泣いたり可哀想で、眼を赤くした。